

CityView!



「CityView!」では、市のイベントや地域的话题を、市民の皆さんにお届けします。
＜掲載した写真は、データで提供します。希望の方は問い合わせください。＞

震災犠牲者にささげる 光の大輪

伝統の鳴瀬流灯花火大会

大正時代から100年以上続く「鳴瀬流灯花火大会」が開かれました。日没とともに水難や震災犠牲者を供養する350個の灯籠で川面と岸辺が彩られ、和太鼓演奏やミニコンサートの後、1000発の花火が打ち上げられました。盆の前半は雨続きでしたが、この日は天候に恵まれ、帰省客を含めた多くの人が夏の思い出を刻みました。(8月16日、鳴瀬川左岸河川敷)

▲夜空を彩った1000発の花火



▲代表児童に黄色い帽子が贈られました

矢本西小「みどりの少年団」結成

矢本西小学校がみどりの少年団を結成し、記念の帽子の贈呈式を行い、273人の児童を代表して環境委員の5、6年生10人がステージに上がり、渥美市長と相沢教育長から帽子をかぶせてもらいました。市内8小学校のうち7校目の結成で、6年の庄子のどかさんが「自然を大切に、花の水やり、お世話に責任を持って頑張ります」と誓いました。(9月3日、矢本西小講堂)

自然を守る心
黄色い帽子に誓う

▼漁場環境への影響などについて意見を交わす出席者

鳴瀬川ダム建設で 情報共有

関係者招き漁業振興協議会総会

県漁業協同組合市内4支所の代表者などからなる市漁業振興協議会は、渥美市長や森下千里環境大臣政務官ら来賓を迎え、令和8年度総会を開きました。今年は10月に日本ウェルネス宮城高校へ特産の焼きのりを贈呈することを決めたほか、鳴瀬川上流でのダム建設工事が河口周辺の漁場に与える影響を心配し、国交省鳴瀬川総合開発工事事務所から水質調査の状況などについて説明を受けました。(8月12日、ちゃんこ萩乃井)

▼学校教育の現状を共有し、環境整備などについて意見を交わしました

市長と教育委員が 情報共有

学びの環境整備へ協議

令和8年度第1回総合教育会議を開催し、渥美市長と教育委員会教育委員が学校教育を巡る話題を共有しました。4月に行った標準学力調査のうち中学3年生の結果は、小学4年生だった5年前と比べて下位層の割合が大幅に減ったことや、進学時の親子の不安を解消する切れ目のない幼保小中連携の具体的な取組が示され、教育環境について意見を交わしました。(8月18日、市役所)

相互の発展へ 海越え連携



▲オンラインで覚書を締結し、改めて協力・連携を確認しました

バンダ・アチェ市と再び覚書締結

東松島市の渥美市長は、インドネシア共和国バンダ・アチェ市のイリザ市長と協力と連携に関する覚書をオンラインで締結しました。津波被害の経験で共通する両市は平成26年に震災復興に向けた覚書を結びましたが、令和2年の有効期間で失効していました。しかし、交流は続いており、改めて手を携えることになりました。半年以内に行動計画を策定する予定です。(8月26日、市役所)



▲酷暑の中での炊き出し支援を報告した貴凛庁の三井紀代子代表(8月14日)



▲渥美市長に義援金を託した矢本二中の及川隼火さんと野口凛花さん(8月21日、市役所)



▲奥洲物産運輸の菅井武英社長は地域住民の分も気持ちを託しました(9月2日、市役所)



▲渥美市長が熊本県御船町へ職員を送り出しました(9月8日、市役所)

熊本へ中学生や企業も支援

東日本大震災の恩返し

東日本大震災の恩返しをしようと、7月28日に大地震に見舞われた熊本県に向けて市民も行政も支援に動きました。旧野蒜小学校の防災体験型宿泊施設「キボッチャ」を運営する(株)貴凛庁は発災間もない八代市の避難所で行った炊き出し支援の活動を報告し、矢本第二中学校は生徒会執行部などの有志が街頭募金で集めた義援金35万8,620円と被災地へ宛てた手紙を市に届けました。また、市内の奥洲物産運輸(株)は、同社を会場に開催したサマーフェスタで来場者に募った義援金と同社からの分を合わせて8万6,283円を市に寄せました。いずれも市の見舞金と合わせて被災7市町へ、矢本二中の生徒からいただいた手紙は、義援金と一緒に熊本県の皆さんへ届けます。支援は金銭にとどまらず、市は宮城県の支援先である御船町へ9月9日から17日までの日程で応援職員4人を派遣しました。



▲矢本二中の生徒からの手紙

市内の6人入賞報告

空手で
全国大会

日本空手協会矢本、鳴瀬両支部の小学生が市役所を訪ね、8月1～2日に利府町であった文部科学大臣杯第68回小学生・中学生全国空手道選手権大会の成績を報告しました。市内からは6人が入賞し、宇都宮綺心さん、奥田湊人さんは高学年団体組手の県選抜メンバーとして優勝に貢献しました。
(8月31日、市役所)



▲全国大会での入賞を報告する日本空手協会矢本、鳴瀬両支部の小学生

20チームが熱いプレー

東松島市長杯野球大会

野球を通した市民の健康増進と友好・親善を深めることを目的に、第21回東松島市長杯野球大会が9月6日から27日までの各日曜日に、市内の球場で行われました。出場したのは20チームとこれまでで最多です。トーナメント方式で試合を進め、仕事も世代も異なる選手たちが、プレーを楽しみ交流しました。
(9月6日、矢本運動公園野球場)



▲野球で親睦を図りました

サッカー通じて20チームが交流

元気な姿で被災地へエール

2026浦和学院旗・毎日興業杯争奪東松島サッカーフェスティバルには市内外20の小学生チームが参加し、2日間の試合を通じて交流しました。震災復興支援で平成27年に招待チームを交えた現在の形になったフェスティバルは今年、「がんばろう熊本!」の横断幕を掲げ、開会式では地震でなくなった人へ黙とうをささげました。(8月1～2日、奥松島運動公園)



▲「がんばろう熊本!」の横断幕のもと、復興への思いを胸に、交流試合が始まりました

「皆が手を携える地域づくり」を



▲赤井地区自治協議会の齋藤英彦会長らの立ち合いで、横山さんに委嘱状が交付されました

赤井地区の集落支援員に横山さん

赤井地区を担当する集落支援員として、地元でPTAや学校運営協議会の委員を務めてきた横山浩子さんを委嘱しました。市は全8地区を目標に住民と行政の橋渡し役となる支援員の配置を進めています。渥美市長から委嘱状を受けた横山さんは「皆が手と手を携えるような地域づくりをしたい」と抱負を述べました。(9月1日、市役所)

みやぎ園芸振興大賞
(県知事賞)

株式会社めぐいーと



▲「人を育て、地域営農を守りたい」と表彰状を受け取っためぐいーと川村代表取締役

令和8年度宮城県園芸振興大会で、宮城県の園芸産出額向上に寄与する団体として、めぐいーとが「みやぎ園芸振興大賞(県知事賞)」を受賞しました。震災後に法人設立し、地域営農の復興を目指して規模拡大してきためぐいーとは、水稻や大豆のほか、ミニトマト、ばれいしょ、希望の大麦など複合経営に取り組んでおり、先進技術の活用や人材育成、地域の賑わい創出などを積極的にやってきたことが評価され、今回の受賞に至りました。
(8月31日、夢メッセみやぎ)

少年の主張石巻地区大会



▼矢本一中3年菅原慶人さん
▼矢本二中3年佐藤ゆらさん

本市から矢本一中3年菅原慶人さんと矢本二中3年佐藤ゆらさんが出場し、「お金について仕組みや扱い方正しく知ること」や「未来をよくするためにAIをどう使うか」などそれぞれが大事にしている思いを精一杯伝え、ともに優良賞を受賞しました。
(9月2日、女川町生涯学習センター)

のんびり、くよくよしないこと

赤井の本田さんが100歳の誕生日

赤井の本田ちかのさんが6月9日、100歳の誕生日を迎え、八木副市長から祝詞を贈りました。大正15年生まれの本田さんは矢本地区生まれ。20代で農家に嫁ぎ、家族で農業にいそしみながら4人の子どもを育てました。趣味はデイサービスで行う塗り絵。たい焼きやチョコレートなど甘い物が好きで、長寿の秘訣は「のんびり、くよくよしないこと。怒らないことです」と話していました。
(6月9日、自宅)



▼家族の皆さんと100歳をお祝いしました

子どものアイデアを一冊の絵本に

赤井南保育所でワークショップ

子どもたちの自由な発想から物語を紡ぎ、オリジナルの絵本を作るワークショップが赤井南保育所の年長児を対象に行われました。仙台市の一般社団法人「KODOMO EHON」の米田久光代表が主導し、初日は対話を通して、子どもたちから柔軟なイメージを引き出し、物語の基礎となるアイデアを聞き取りました。
(7月29日)



▲絵本に必要なアイデア探しを子どもたちと一緒にしました

パイロットと一緒に夏の思い出作り

「ブルーフェスタ」初開催

「やもとブルーフェスタ」と題した催しでは、航空自衛隊松島基地のパイロットによるトークショーなどのステージイベントがあり、市民や市外からの航空機ファンでにぎわいました。例年8月末に開催していた東松島夏まつりと松島基地航空祭が、今年から暑さ対策で10月に変更になったことを受け、地元の食産組合が初開催しました。車両通行止めにした通りに出店も並び、たくさんの親子がお祭りを楽しみました。
(8月22日、市商工会駐車場)



▲航空自衛隊松島基地のパイロットによるトークショーなどで盛り上がる会場